福島の子ども保養プロジェクト・杉並の会

福島の子どもたちが自然の中で思いっきり遊べるように！

2019年夏 第8回

期間 2019年8月12日(月)～8月16日(金) 4泊5日

場所 富士学園 北富士の忍野村にあり、豊かな自然環境に立地しています。杉並区立小学校5・6年生が移動教室に使用しています。

2011年3月11日の福島第一原子力発電所の大事故から今年で8年目です。
現在、安倍政権は、年間20ミリシーベルト（原発事故前は、安全基準値が1ミリシーベルト）という高い放射線量を避難基準とし、次々と避難指示の解除を進め、「避難者」への住宅提供・補助を打ち切り帰還政策を進めています。しかし、放射能や福島第一の廃炉が今後どうなるのかが心配で、故郷に帰りたくても帰れない方々が多数だという現実もあります。
福島は今なお、事故前より放射線量の高い除染されていない山林やホットスポットの存在は残されたままになっています。そういった環境の中で、福島の子どもたちやご家族は、言い知れぬ不安と苦悩を抱え、ストレスの多い生活を強いられています。
私たちは今年も、富士山麓での4泊5日の保養を開催し、福島の親子50名（予定）と共に過ごします。

カンパのお願い

この事業には毎年合計約250万円ほどの費用がかかります。
福島の子どもの保養事業のために、どうか資金援助へのご協力をよろしくお願い申し上げます。

資金内訳［概算］

交通費（福島の観光バスをチャーター予定で）	往復：500,000円
宿泊費（1泊8,000円）×4泊×50人	1,600,000円
その他（材料費、学習室使用料、報告書作成など）	400,000円
計	約250万円

郵便振替
［口座記号番号］
00170-7-655815
［加入者名］
福島の子ども保養プロジェクト・杉並の会

主催：福島の子ども保養プロジェクト・杉並の会
［代表 長谷川和男／事務局長 斉藤正明］
後援：杉並区／杉並区教育委員会／杉並区社会福祉協議会
連絡先：斉藤 正明［03-3337-2247］
http://suginamihoyo.jimdo.com/

福島の子ども
保養プロジェクト・杉並の会

「福島の子ども保養プロジェクト・杉並の会」とは

2011年3月11日の東日本大震災にともない、福島第一原発が取り返しのつかない大事故に至りました。私たちは、とりわけ未来を担う子どもたちの健康が心配になりました。

微力ではありますが、私たちにできることをしなければならないと考え、子どもたちとその家族の保養をしようと仲間たちと話し合い「福島の子ども保養プロジェクト・杉並の会」を立ち上げました。保養とは、放射能汚染の少ない地域へ一時滞在することを指し、チェルノブイリ事故後におこなわれている取り組みです。

保養により放射能の不安から解放され、屋外で思いっきり体を動かして、子どもらしく健康的に過ごすことは、心身の健康を維持するための免疫力、抵抗力を高めることができると言われています。

杉並の取り組みの特徴は親子での保養です。お父さん、お母さんも様々なストレスから解放され，子どもたちと一緒にリフレッシュしてほしいという思いからです。

杉並区・教育委員会・社会福祉協議会の後援や、区内の幅広い諸団体・個人のご支援をいただきながら、2012年の夏から保養を行っています。

参加者の声

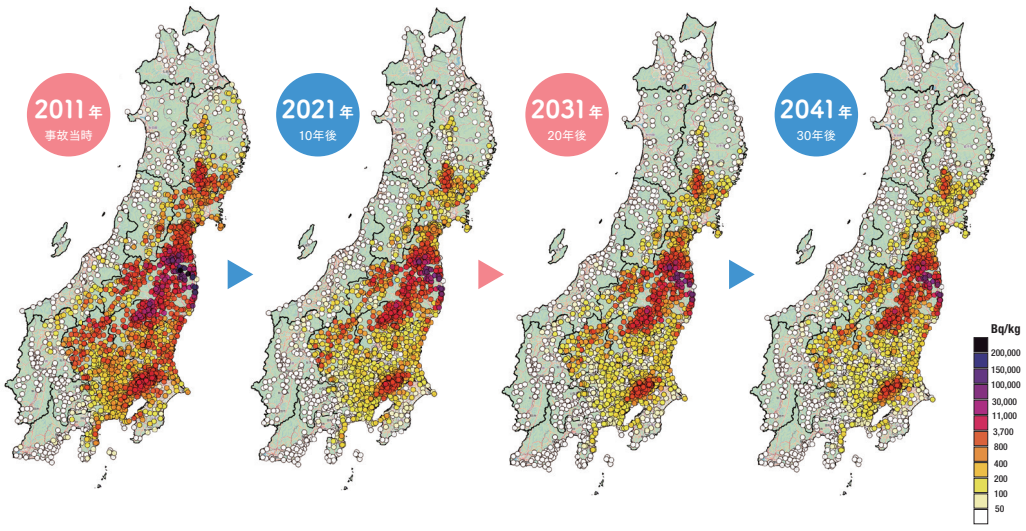
流しそうめんやスイカ割り、キャンプファイヤー、盆おどり、じゃぶじゃぶ池あそび、富士登山、肝だめし等々初めての経験をさせてもらえて、親も子も大満足でした!!

子どもは、いっぱい いっぱい遊んでいただいて、とっても楽しそうでした。家ではゲームばかりですが、体を動かしたおかげでご飯もたくさん食べて、本当によかったです。

福島のいま、これから

下の図は2014年10月～ 2017年9月にかけて延べ4,000人の市民が参加した「東日本土壌ベクレル測定プロジェクト」の測定結果に基づく放射性セシウム（Cs-134とCs-137）による土壌汚染状況と、その減衰シミュレーションを可視化したものです。Cs-137は半減期が30年と長く、事故から10年以上経過しても人が居住すべきではない地域が残されることを示しています。また、Cs-137は土壌に強く固着される性質を持ち、除染により取り除くことは困難です。未除染の山林やホットスポットなどは避けたいところですが、子どもの成長には外遊びも大切です。一時的にでも空間線量率が低い地域へ滞在する保養の取り組みは、今なお必要と言えます。

市場に流通する福島県産の農産物は、農家の努力と検査により、基準値（100Bq/Kg）を大幅に下回る状況が続いています。一方で、自家消費の農産物（特に山菜・きのこ類）には、事故後何年も経過してさえ基準値超えが懸念される検体が10～20%程度は存在することが福島県による調査からも明らかになっています。福島県内に居住する方々の食による内部被曝が心配されます。このような状況から、私たち福島の子ども保養プロジェクト・杉並の会は「原発事故による福島の被害はまだ終わっていない。事故を風化させてはならない。」と考え、今年度も保養を継続します。

放射性セシウムによる土壌汚染状況と減衰シミュレーション

出典
みんなのデータサイト　書籍
『「図説」17都県放射能測定マップ+読み解き集』
（放射性セシウム汚染減衰推計
100年マップ 2011-2111）より抜粋
みんなのデータサイト　https://minnanods.net/